

## 学位論文内容の要旨

学位申請者	滑川 恵理子 【比較社会文化学専攻 平成18年度生】 平成28年度再入学	要 旨
論文題目	言語少数派の子どもの生活体験を基盤とする概念発達の様相-二言語使用学習のヴィゴツキー理論に基づく分析-	<p>本研究は、言語少数派の子どもの生活体験を基盤とする概念発達（生活体験と抽象概念が統合される中で概念が広がっていく過程）の様相を、発達の最近接領域（ヴィゴツキー）におけることばのやり取りに注視しながら分析し、得られた知見と示唆を教育現場に提供することを目的としている。</p> <p>論文は、家族の仕事に関わる生活体験および子どもの日本の学校での体験に着目した研究1、子どもの故郷での体験を基盤に作文を書く過程における子どもと支援者のやり取りに着目した研究2、親子に共通する生活体験に着目した研究3で構成される。分析の結果、相互育成学習において、言語的・文化的隔たりを縮めるとともに、表面的な理解ではない、生活体験に根差した「身をもった概念理解」が示された。その過程では、子どもがもともと持っていた概念が他者とのやり取りによって変化し広がっていくという概念発達の様相が可視化された。これらから、教育現場では子どもに抽象概念をより早くより多く理解させることが成果だと考えがちだが、抽象概念の発達を急がせることなく、まず心豊かな生活体験を積むことが発達の基盤を創ると結論付けている。</p>
審査委員	(主査) 教授 佐々木 泰子	
	教授 加賀美 常美代	
	准教授 西川 朋美	
	教授 森山 新	
	助教 本林 響子	